

# 先生方とともに歩んだ『VIEW21』の「これまで」

1974年に創刊した本誌は、今号で通巻386号を数えます。日本の教育の変革の軌跡と、2021年4月より『VIEW next』に名称を変更する本誌の、先生方とともに歩んだ「これまで」を振り返ります。

2000年

主な出来事

- ◎ 共通第1次学力試験の初実施 (1979年)
- ◎ 共通第1次学力試験に代わる大学入試センター試験の初実施 (1990年)
- ◎ 中央教育審議会の答申「子供に『生きる力』と『ゆとり』を」 (1996年)

1974年

## 「進学指導」から「進路指導」へ 現場の課題に対応

『VIEW21』のルーツである『進研ニュース』は、進研模試のデータを盛り込みながら、大学入試情報を中心に、教育に関する情報を先生方にお届けしてきました。90年代に入ると、社会環境や生徒の気質の変化などによって、学校現場が「進学指導」から「進路指導」にシフトしたことに合わせ、「進路指導」中心の情報提供に編集方針を転換しました。

1995



21世紀を見つめ、教育の「これから」を考える情報誌として、『進研ニュース VIEW21』に名称を変更。

1983



より豊富な内容の大学入試情報をお届けするために、創刊10年を機にB5判の情報誌に。

1974



共通一次試験案が衆目を集めていた大学入試の激動期。本誌は、4ページのタブロイド紙として創刊。

『VIEW21』を一言で表すと「囲炉裏」です。そこは暖かい場であり、様々な「出会い」と「気づき」が生まれます。『VIEW21』との初めてのかかわりは、1997年Vol.1で、当時の勤務校での3年間の進路指導ストーリーを報告させていただいた時です。その号の特集は「2010年の教育環境を予測する」で、様々な調査データを基に、全国の経験豊かな先生方が、それぞれの立場から議論していたその記事から、私は多くの「気づき」をいただきました。その後も幾度となく『VIEW21』にかかわらせていただきました。直面する教育課題について、半歩先の教育に対する



寺島 求  
東京都立新宿高校 非常勤教員

### 「出会い」と「気づき」をもたらず高校教師の「囲炉裏」

先見性とデータに基づきながら、多様な視点で議論するというスタンスは、変わることなく受け継がれていると思います。『VIEW21』の企画を通じて、全国の先生方との意見交換も経験しました。時に耳の痛い議論になっても、「生徒を第一に」という共通認識があれば、大きな「気づき」となる。自分の成長の糧とするだけでなく、想いを同じくする全国の先生方に元気を届けることもできたのではないかと振り返っています。『VIEW21』がつないでくれた先生方とのご縁は、私の一生の宝です。今も高校現場は、様々な教育課題への対応を求められています。『VIEW next』を中心に、全国の先生方が集まり、語り合い、知恵を出し合い、よりよい解を見つけていってください。『VIEW next』が、高い志を持った先生方にとつての「囲炉裏」となることを期待しています。

### 私と『VIEW21』

本誌に彩りを添えた高校教師や識者が、『VIEW21』の思いと『VIEW next』への期待を語りました。

1998



表紙を、「教師と生徒のコミュニケーション」をコンセプトにした写真に変更。以来、臨時増刊号を含め、140組を超える「教師と生徒」が表紙を飾ってきた。

2004年4月号からは、図版を大きく掲載するなど、より見やすい誌面を目指して、A4判に変更。



2001年

- 主な出来事
- 公立高校に完全学校週5日制導入 (2002年)
  - 高校で「総合的な学習の時間」の導入 (2003年)
  - 大学進学率が50%を突破 (2009年)

## 教育の「これから」を考える視点が增える

21世紀を迎えると、学力の多層化や進路観の多様化など、高校現場の状況はさらに変化し続けました。それに対応するように、本誌の特集のテーマも、「国際化を視野に入れた進路観の養成」「学力多層化への対応」「保護者と『共有』する学校づくり」「『自立する高校生』をどう育てるのか」「SIを土台に新課程カリキュラムをつくる」など、多彩に。グローバル化への対応や科学技術系人材育成のための研究事業も始まり、教育の「これから」を考える視点も増えていきました。

2010



2006



2005



スーパーサイエンスハイスクール (SSH)、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール (SELHI) といった新潮流は、臨時増刊号で詳説した。



福岡県立城南高校の『ドリカムプラン』などの先駆的な取り組みは、継続的に誌面に取り上げ、時代の中での進化を追いかけた。

『VIEW21』が新しく生まれ変わること、おめでとうございます。30年以上を拝読する中で、多くの情報を得ることができました。私は、『VIEW21』の最大の魅力は、常に現場に寄り添い、みんなで未来の教育を育てていこうとする「志」だと思っています。自分も何度か誌面に登場させていただき、全国の先進的な先生方と交流する中で視野を広げることができたと感謝しています。

特に印象に残っているのが、2010年10月号での牧島勝利先生（栃木県・私立文）



ユマニテック短期大学 学監  
ユマニテック教育研究所 副所長  
鈴木達哉

### 未来の教育を育てる「志」と現場に寄り添う姿勢に感謝

「せんせーい、決まりましたよおー」ベネッセの学校担当者が、進路室のある3階まで大声で叫びながら階段を駆け上がってきた。1994年10月に開始した「福岡県立城南高校ドリカムプラン」が、『VIEW21』に取り上げられることが決まったのだ。入社2、3年目の若手社員の企画が通ったとあって、企画を売り込んだ私たち（城南高校職員3人組）も大喜び。まだ当時のものとも山のものとも分からないドリカムプランについて、私たちはこう言っていて売って入っていた。「いい？ これは絶対結



福岡県・福岡市立福岡西陵高校 校長  
和田美千代

### 未来の創り手の教科書であり、同志との出会いの場だった

果が出るよ。でもね、結果が出てから載せたんじゃない、見識を疑われる。これからはこんな人材育成が必要だからやってる。進路実績うんぬんじゃなくて、そこを『VIEW21』で全国の先生たちに伝えたい」

『VIEW21』は、全国の高校の先生方にとって、教育改革の動向や先進事例を学ぶ、進路指導の教科書でした。『VIEW21』を通じて、学校にいながら、全国の先生と誌上で会い、つながっていくような気持ちになりました。『VIEW21』を媒介に、全国の同志とエールを交換していました。

『VIEW21』になっても、その使命は変わらないと思います。いや、むしろ予測不可能なこれだからこそ、未来の創り手たちにますます必要とされるだろうと期待しています。





## 2017年

### 主な出来事

- ◎東日本大震災発生 (2011年)
- ◎高大接続改革に関する中央教育審議会の答申 (2014年)
- ◎新学習指導要領に関する中央教育審議会の答申 (2016年)

## 生徒が自らの人生を 切り拓くための 資質・能力の育成に 焦点をあてる

AIを始めとする技術革新やグローバル化の進展などを背景に、「主体性の育成」「変化を生き抜く『軸』と『修正力』の育成」「多面的評価」など、生徒が自らの人生を切り拓くための資質・能力の育成に焦点をあてた特集が多くなりました。アクティブ・ラーニングの先駆的な実践者や、育成を目指す資質・能力を設定し、その実現を目指す学校改革の営みである「学校教育デザイン」を描く取り組みを取り上げる企画もスタートしました。

### 2017



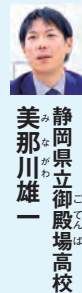
「学校教育デザイン」を描く取り組みの先進校、山梨県立吉田高校の実践は、シリーズ特集として継続して紹介した。

### 2015



探究学習やアクティブ・ラーニングにおける、各校・各教師ならではの様々な実践を掘り下げた。

## 人と人をつなぐ場であり、 ともに悩み、挑戦させてくれた



静岡県立御殿場高校  
美那川 雄一

高校2年生、9月。真っ黒に日焼けして夏休みも部活動に打ち込んだ生徒たち。何やらそわそわして落ち着かない。中間審査も近いのに、勉強に身が入っていないようだ。青春真つただ中の彼らに、担任としてどんな声をかければよいのだろうか？ 今の彼らに、響く言葉は何だろうか？ 職員室に戻ると、机の上に『VIEW21』があった。ページをめくると、部活動と勉強の両立を通して生徒の人間性を高めている実践事例が載っていた。人を育てることの価値を熱く語る言葉が、そこにはあった。巻末には

「夏休み前後の指導」という企画。全国の先生方も、2学期の指導に悩んでいた。読み進めると、私は肩の力が抜けていくのを感じた。「生徒一人ひとりと話をしてみよう」。ネクタイを外し、空色のサッカーシャツに着替えて、私はグラウンドに向かった。15年前に、私は『VIEW21』と出会いました。誌面に登場する先生方を尊敬し、目標としました。ですから、前任校で当時新たな試みだったパフォーマンス課題・評価やルーブリックを用いた授業を取材してもらった時はうれしかったですし、全国の先生方から「ご意見をいただいたことでもっといろいろなことに挑戦しようと思えました。『VIEW21』によって、「1人で挑戦しているのではない。全国の先生方と一緒になのだ」と考えるようになったのです。

## 次代の行方を照らし、 挑戦者に喜びと誇りを与えた



山梨県立吉田高校 前校長  
高保 裕樹

私は、進んで情報を収集して、それを自校に取り入れていくタイプではなく、直感で動くタイプの校長でした。そんな私でも、『VIEW21』だけは目を通していました。山梨県立吉田高校に校長として赴任した際、従来からの教育目標に疑問を持っていた私は、「吉田高校グラデュエーションポリシー（吉高GP）」の導入を決めました。学校のウェブサイトにアップして間もなく、編集部から取材依頼があった時は、「すべての高校のウェブサイトをチェックしているのか」と驚きました。継続取材

の打診に、「記事に合わせた取り組みをする気はないが、それでよければ」と、横柄な回答をしたにもかかわらず、その後も取り上げていただき、大変感謝しています。『VIEW21』の発信力は凄まじく、視察校が後を絶ちませんでした。一番うれしかったのは、記事を読んだ生徒や保護者、先生方が、今まで以上に学校に誇りを感じてくれたことでした。創立80周年の節目の年だっただけに、これ以上ない喜びでした。社会が大きく変わっていく中、むしろ、学校教育が社会の変化をリードするぐらいの気概が必要なのではないでしょうか。『VIEW Next』が次代の学校教育の行方を照らし、先進的な取り組みに寄り添い、応援する情報誌になられることを心から祈り、期待しています。

2020年6月号からは、臨時休業という想定外の状況下で、学校での学びの価値を捉え直した生徒の絵が表紙を飾った。



- 主な出来事
- ◎高校の新学習指導要領の告示 (2018年)
  - ◎新型コロナウイルスの感染拡大と臨時休業 (2020年)
  - ◎大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストの初実施 (2021年)

2018年

学校における  
「対話」の文化の創出と  
教育の「これから」  
を提言

答えが1つではない問いに向き合うことが求められる時代となり、互いの考えや思いを共有する重要性が高まる中、学校に「対話」の文化を創出することを目的に、誌面での情報発信にとどまらず、ワークショップの形によるリアルな対話の場づくりにも挑戦しました。2020年4月号からは、新型コロナウイルスの感染拡大、そして臨時休業という、まさに予測困難な状況下での各校の取り組み、さらには生徒や教師の姿を取材し、教育の「これから」を考え続けました。

VIEWnextへ

予測困難な時代だからこそ、  
先生方とともに、教育の今を見つめ、  
未来を描いてきたい

半歩未来を見据えて、生徒たちと本気で向き合い、ご指導される先生方の熱量を取材を通して感じ、そこから多くを学ばせていただきました。「手を放すために手をかける」。取材した先生から教えていただいた言葉です。子どもの自立に何が必要なのかを捉える、素晴らしい言葉だと思います。先生方に負けないように、未来を見据え、今何が必要なのかを考え続けていきます。

ベネッセ教育総合研究所(VIEW21 高校版 前編集長) 小泉和義

『VIEW21』の前身である『進研ニュース』創刊から47年、通巻386号……その歴史と、誌面を通じて先生方からいただいた数々の言葉の重みを、今回の特別企画を通して改めて感じました。『VIEW21』の取材や記事をきっかけに多くの先生方が出会い、そのつながりが広がっていく。それは本誌が追求し続ける、ありたい姿の1つです。そしてこれからも、先生方の今に寄り添うことを大切に、先生方とともに教育の未来を見つめてまいります。

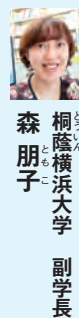
VIEW21編集部 統括責任者 柏木崇

2019



2019年3月、カリキュラム・マネジメントの推進を目的としたワークショップを開催。全国から集まった高校教師が、課題や展望について存分に語り合った。

ピンチをチャンスに変える  
パートナーとして期待したい



桐蔭横浜大学 副学長  
森 朋子

私の仕事は高校や大学の「学びのデザイン」なので、高校の先生方の興味・関心や挑戦が満載の『VIEW21』に目を通すことは必須です。それは、高大接続や高大連携の観点から大学をよくすることにもつながります。学びにおいて高校と大学がつながることが、人材育成の重要なポイントです。『VIEW21』はその活動のパートナーとして私を支えてくれました。

『VIEW21』とのご縁で印象深いのは、2019年3月のカリキュラム・マネジメントのワークショップです。準備段階から、参加者の学びをどのようにデザインするの

か、編集部の方々と議論を重ねたことが懐かしいです。結果、全体会や分科会、そして後日のフォローアップなど、その構造やプロセスそのものが学びの理論に沿った、よいワークショップになりました。全国から集まった、多様な経験を持つ参加者と、日常的な課題や優れた教育実践を共有できたことも、私の大きな財産になりました。

コロナ禍で従来の授業観・教育観の転換が余儀なくされましたが、私は硬直気味の授業、カリキュラム、そして学校全体を見直すよい機会と位置付けています。ピンチはチャンス。予測困難な世の中だからこそ、生徒・学生一人ひとりの資質・能力を精いっぱい伸ばす教育活動を、高校と大学がタッグを組んで実現させましょう。『VIEWnext』は、そのパートナーとして、私たちに知見を与えてくれるはずですよ。

VIEWnext  
創刊記念セミナー開催

3月27日(土)  
13時30分～15時40分  
(オンラインにて)

講演者 将棋棋士 羽生善治 九段  
國學院大學 田村 学 教授 ほか

詳しくは裏表紙をご覧ください